

小 学 校

平 成 4 年 度

教育研究員研究報告書

国 語

東京都教育委員会

平成4年度

教育研究員名簿

	区市名	学校名	氏名		区市名	学校名	氏名
低学年A分科会	台東	松葉小	◇堀 敏子	高学年A分科会	港	東町小	◇松井清貴
	大田	中萩中小	明石真吾		江東	数矢小	◆田口あや子
	世田谷	弦巻小	○田所友子		大田	東調布第三小	氏原万知子
	練馬	大泉第三小	絲川佐知子		北	赤羽小	小山悦子
	葛飾	飯塚小	加藤良子		保谷	保谷小	堺 邦彦
	八王子	第八小	清水久美子		多摩	南鶴牧小	河合かつ江
	小金井	南 小	海東孝昌				
低学年B分科会	品川	第四日野小	中村明美	高学年B分科会	目黒	上目黒小	宮野 順
	渋谷	幡代小	菊地利江		中野	鷺宮小	内藤輝美
	練馬	豊玉小	船尾まり子		杉並	大宮小	岩崎光夫
	足立	千寿桜小	松本美砂子		板橋	板橋第六小	◇中島栄二
	江戸川	松江小	長島ツタエ		足立	北鹿浜小	大久保旬子
	小平	小平第十一小	◇逢坂 隆		江戸川	下小岩小	伊井恵子
				町田	忠生第七小	新保弓子	
中学年分科会	中央	明正小	菅澤和子	◎ 全体世話人 ○ 全体副世話人 ◆ 全体記録 ◇ 分科会世話人			
	世田谷	千歳小	佐々木朝美				
	豊島	大成小	◎名古屋敏子				
	八王子	元八王子東小	加藤恵子				
	府中	住吉小	谷津芳子				
	昭島	共成小	◇井上紋子				
	田無	谷戸第二小	岩坂 止				
	福生	福生第三小	坂部純子				
	狛江	狛江第三小	河村タイ子				
	新島	式根島小	宮川洋子				

担当課長 小島 宏

教育庁指導部初等教育指導課

担当指導主事 田中延男

教育庁指導部初等教育指導課

目 次

I 共通研究主題 意欲的に読み進める児童を育てる指導法の研究	2
— 説明的文章の読みを通して —	
1. 共通研究主題設定の理由	2
(1) 説明的文章の読みの活性化を図る	2
(2) 学び方を身に付けさせる	2
2. 共通研究主題に対する基本的な考え方	3
(1) 説明的文章を意欲的に読み進める児童像	3
(2) 研究の内容と方法	3
(3) 研究の構造図	4
II 意欲的に読み進める児童の具体化	5
1. 知的好奇心をもち読み進める児童	5
2. 言葉の働きに着目して読み進める児童	6
3. 読み取ったことを自分なりに表現する児童	7
4. 学び方を身に付けている児童	8
III 実践事例	9
1. 第1学年 楽しく読み進めるための学習活動の工夫	9
教材名「じどう車しらべ」	
2. 第2学年 興味・関心をもち、正しく読み進めるための学習活動の工夫	12
教材名「ことばをおぼえたチンパンジー」	
3. 第4学年 自分の力で読み進める学習活動の工夫	15
教材名「わらとくらし」	
4. 第5学年 一人一人が学習の仕方を身に付け、意欲的に読み進める学習活動の工夫	18
教材名「日本の夏、ヨーロッパの夏」	
5. 第6学年 目的に応じて意欲的に読み進める学習活動の工夫	21
教材名「波にたわむれる貝」	
IV 研究の成果と今後の課題	24

< 要 約 >

本研究は、意欲をもって説明的文章を読み進めることができるよう、読みにおける表現活動の工夫と読むことの学び方を身に付けさせるための工夫についてまとめたものである。

Ⅰ 共通研究主題 意欲的に読み進める児童を育てる指導法の研究

— 説明的文章の読みを通して —

1. 共通研究主題設定の理由

これからの国語科教育は、言語の教育としての立場を一層重視しながら、特に情報化などの社会の変化に対応するため、目的や意図に応じて適切に表現する能力と相手の立場や考えを的確に理解する能力を養い、思考力や想像力及び言語感覚を育てるようにすることが強く求められている。そこで、論理的思考力や学び方を学ぶ力の育成を図り、主体的に生涯を通して意欲的に読み進める児童を育てる必要があると考えた。また、このような児童を育成するためには、現在の国語科教育の現状を踏まえ、説明的文章を意欲的に読み進める指導の内容や方法の工夫が必要であると考え、本主題を設定した。

(1) 説明的文章の読みの活性化を図る

説明的文章を読む意義は、①知識・情報が獲得できる②論理的思考力を高める③表現方法を知り文章表現に生かす④知識や情報を生活に適用し人間形成に役立てる等である。しかし実際の指導では、文章を正確に理解することに重点がかかりすぎ、なかなか主体的で意欲的な学習活動につながらないことが多い。

説明的文章の読みでは、書かれている内容（情報）を読み取るとともに、内容を理解するために、筆者の説明のための思考の論理や指示語・接続語等の論理をつなぐ言葉の働きに気付かせていくことが大切である。何を読み取るのかを明確に学習課題に打ち出し、正確に読み取ったことを自分なりの表現でまとめるなど、表現活動を工夫しながら主体的に読み進めることが読みの活性化につながっていくと考えられる。また意欲的に読むためには、知的好奇心を喚起し、持続させる手だてを工夫することも大切であり、楽しく読み進めながら、しかも読みの力が付いていく学びの場を作っていく必要がある。

(2) 学び方を身に付けさせる

自ら学ぶ意欲が高まる要因としては、①学習している内容がよく分かる②もっと知りたい。自分のために役立つ等、内発的動機が大きいことが知られている。一方、学習意欲をなくす要因は①学習内容の未消化②学習に対する目的意識の不明確さ等が考えられる。

これらのことから、学ぶ意欲を高めるには、児童に学習への動機を与え、学ぶことの楽しさや達成の喜びを体得させることが大切である。このもとになる論理的思考力、情報処理能力、表現力等の力を具体的に育成していくためには、学び方そのものを児童に身に付けさせる必要がある。そこで本研究では、この学び方の内容も分析を試み、その能力の育成に努めた。

2. 共通研究主題に対する基本的な考え方

(1) 説明的文章を意欲的に読み進める児童像

説明的文章を意欲的に読み進めるとは、自らの生活体験や既習の学習内容などを基盤として文章の情報内容にふれながら、言葉の働きや筆者の論理などに着目し、目的意識をもって積極的に読み進めていくことである。

一般に、説明的文章の読みにおいて、児童は次のような場面で学習意欲が喚起され、知的好奇心を触発されたり、持続させたり、満足させたり、発展させたりするものであると考えられる。

出会いの場面（題名、情報内容の価値から、文の構成や論理性から、等）

読み進めの場面（課題、理解の深まり、論理的思考の楽しさ、読み取ったことの表現、友達との読みの比較、等）

まとめの場面（学習目標の実現、課題の解決、自分の言葉による再構成、等）

発展の場面（読書への興味、自己の生活への活用、等）

そこで、このような場面を重視した学習活動を工夫することによって、どの児童も興味関心を持ち、説明的文章のもつ論理性や言葉の働きなどに着目しながら、自分の力で読み進めることができるようにしたいと考えた。

本研究では、このような児童像を次の4つに分析し、それぞれの能力や態度を身に付けさせる指導の手立てを明らかにするように努めた。

- ① 知的好奇心を持ち読み進める児童
- ② 言葉の働きに着目して読み進める児童
- ③ 読み取ったことを自分なりに表現する児童
- ④ 学び方を身に付けている児童

これらの4つは、相互に支え合って相乗的に学習意欲を高めていくものである。

(2) 研究の内容と方法

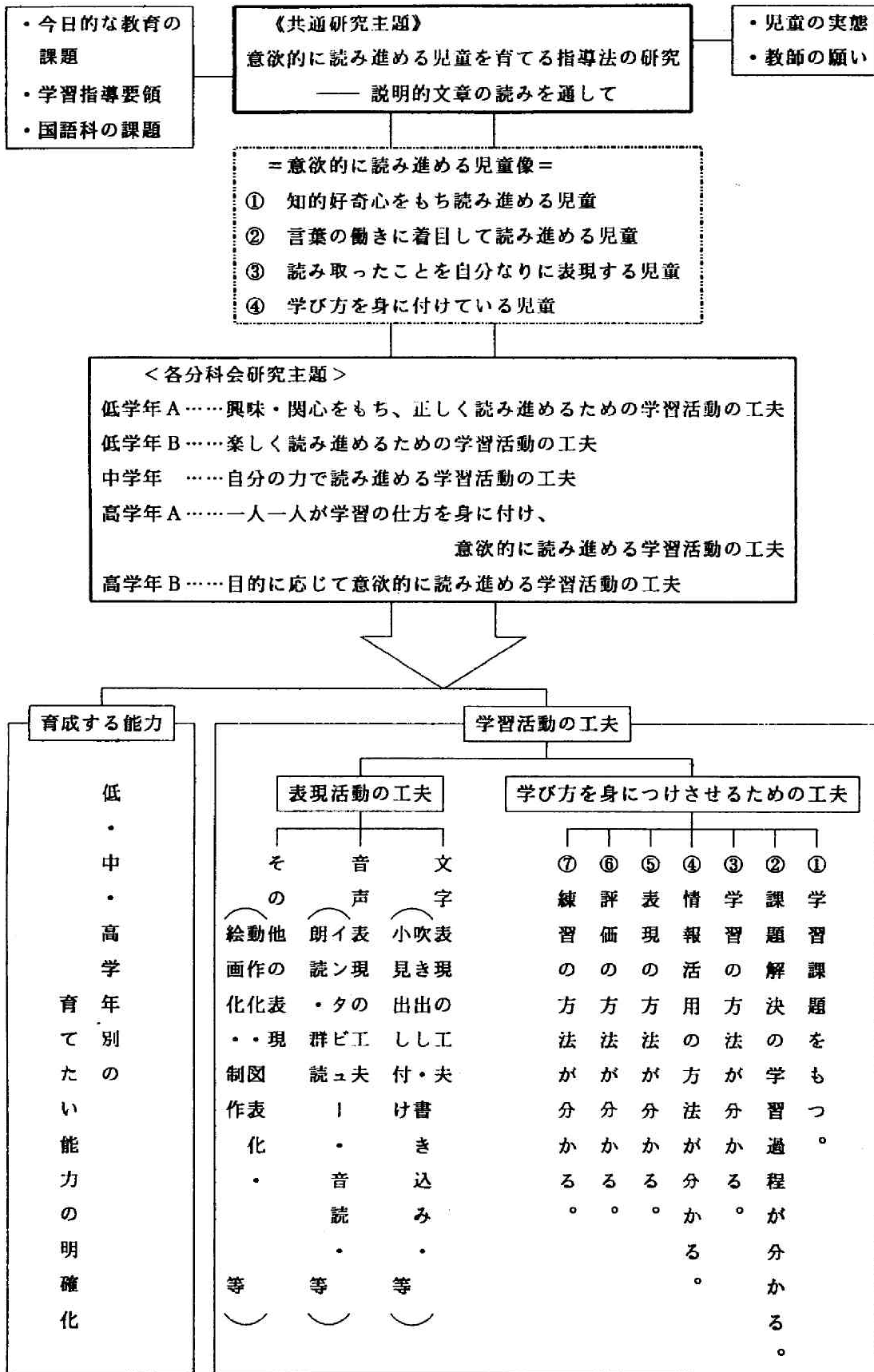
① 研究の内容

上記の考えに基づき、説明的文章を意欲的に読み進めさせるための方法を、授業実践を通して追究した。

② 研究の方法

児童の発達段階を考慮して5つの分科会を構成し、それぞれの研究主題を設定して児童の実態把握、指導案作成、授業研究、研究協議をしながら研究を進めた。

(3) 研究の全体構造図



II 意欲的に読み進める児童の具体化

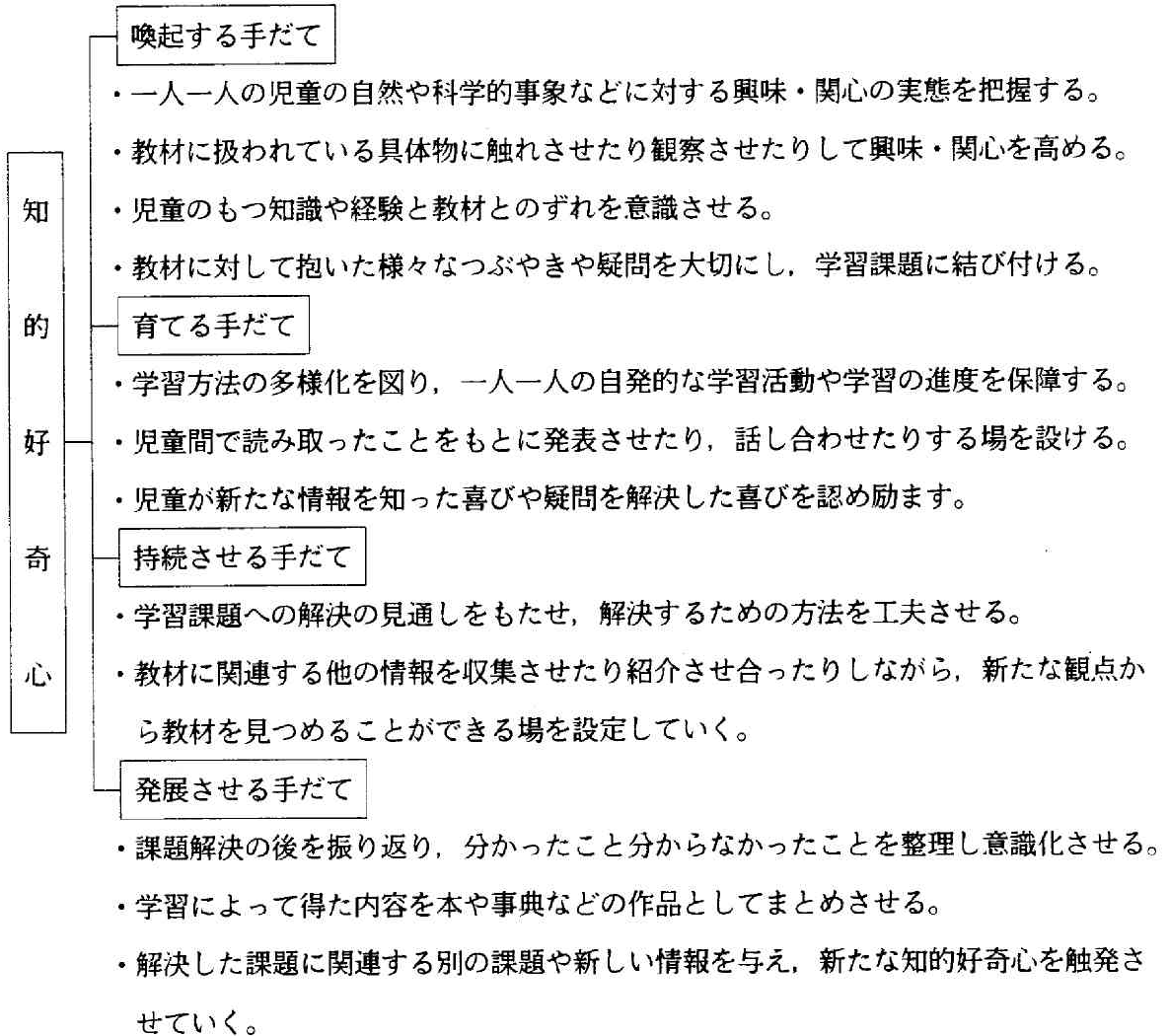
1. 知的好奇心をもち読み進める児童

知的好奇心とは、新たな情報に直面したとき、自分の既知の知識や体験等に照らしながら積極的にその情報やそれにかかわる別の情報を理解して取り込もうとする心の働きのことである。

児童は、このような知的好奇心を、元来もって生活しているものと考えられる。自分が興味・関心を抱いた情報に対しては、積極的に「知ろう」と努力する。しかし説明文で扱われる教材は、個々の児童の興味・関心から選ばれたものではない。同一の教材をすべての児童が読み進めることになるが、これに対する知的好奇心をもつ度合いは、一人一人に違いが生じてくる。

これらのことを踏まえながら児童の知的好奇心を喚起し、はぐくみ、持続させながら読み進めていく児童を育てなければならない。そのための手だてを以下のように考えた。

<知的好奇心をもち読み進めていく児童を育てるための手だて>



2. 言葉の働きに着目して読み進める児童

これまでの説明文の指導を振り返ってみると、教師は、段落の要点や段落相互のつながりなどの指導に目を向けがちであり、そのため、児童は内容のおもしろさや楽しさを味わうことができないでいることが多く見られる。また、内容のおもしろさや楽しさに目を向けた指導を重視すると、児童は既習の経験や知識だけにたよって読み進めることが多く、言葉に着目した読みにはなりにくい傾向にあった。

説明的文章の読みにおいては、情報内容や内容相互の関係を叙述に即して正確にとらえ、読み進めることが大切である。興味深い情報を文章の表現や筆者の思考の論理と結び付けながら読むことができれば、児童は主体的に学習を進めることができるであろう。

そこで、書かれている情報内容と学年の指導目標とのかかわりについて考え、その時間に養うことのできる言語能力、指導事項を明確にするとともに、それらの指導内容が児童一人一人の読みにおける思考とどのようにかかわるかについて教材研究を深めることが大切である。

このような指導を行う際に前提となる学習指導要領を中心にして、「育成する能力」とそれにかかわる「指導の手だて」を以下の表にまとめてみた。

		育成する能力	指導の手だて										
			視写	動作化	言いかえ	書き抜き	フラッシュカード	短作文	サイドライン	書き込み	小見出し	構造図	
理解	低学年	<ul style="list-style-type: none"> 文章の内容の大体を読みとる。 時間的な順序、事柄の順序を考えて、文章の叙述に即して内容を正しく読みとる。 		●	●					●		●	
	中学年	<ul style="list-style-type: none"> 文章の要点を正しく理解しながら、叙述に即して内容を読み取る。 段落相互の関係を考え、文章の中心的事柄を読み取る。 読む目的や自分の立場から、大事な事柄を落とさないで読む。 			●	●				●	●	●	●
	高学年	<ul style="list-style-type: none"> 文章の主題や要旨を考えながら、文章の叙述に即して正確に読む。 事実を客観的に述べているところと、書き手の意見を述べているところとの関係を押さえながら読む。 聞いたり読んだりした内容について、自分の立場や目的に応じて再構成して表現する。 			●	●				●	●	●	●
言語事項	低学年	<ul style="list-style-type: none"> 語句の性質や使い方に関心をもつ。 文の中における主語と述語との照応、修飾と被修飾の関係、文章における指示語や接続語の役割と使い方に気付く。 	●	●		●	●			●			
	中学年	<ul style="list-style-type: none"> 語句には、性質や役割の上で類別があることが分かる。 初歩的な文章の構成を理解する。 指示語や接続語の使い方に注意しながら適切に使う。 	●			●	●	●	●				
	高学年	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の使い方に対する感覚について理解する。 いろいろな文章の構成を理解する。 文と文の意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を的確に使う。 	●			●		●	●				

3. 読みとったことを自分なりに表現する児童

主体的に学習を進めることのできる児童を育てるためには、目的や表現内容に応じて自分なりに表現できる能力を養うことが重要である。このような能力を児童に身に付けさせるためには、次に示したような学年に応じた段階的な指導を行っていくことが大切である。

読み取ったことを自分なりに表現する児童			
	低学年	中学年	高学年
育成する能力	自分の考えを言葉や動作で表すことができる。	いろいろな方法で表現することができる。	目的や内容に適した方法で表現することができる。
指導の手だて	ア. 多様な表現活動の楽しさを味わわせる。 イ. 友達の表現を見る、聞く、読む楽しさを味わわせる。	ア. 多様な表現活動を経験させ、それら一つ一つのよさに気づかせる。 イ. 友達の表現を見る、聞く、読むことによってわかる楽しさを味わわせる。	ア. 表現したいことを明確にし、それを効果的に伝えることができる方法で表現させる。 イ. 友達の表現をもとに自分の考えを再構成する楽しさを味わわせる。
	ウ. 児童一人一人の表現や発想を認め、励ます。		エ. 友達の表現を認める心情を育てる。

低学年では表現活動そのもの楽しさを見いだし、また自分の考えが他の児童にも伝わった時の喜びを十分味わわせることにより、表現活動の楽しさを認識させることが必要である。また、中学年においては意図的・計画的に教材文の特性に応じた表現活動を数多く経験させることによって、いろいろな方法で表現する能力を育てたい。さらに、高学年ではまず表現したいことを要約やカード化など自分なりの方法で明らかにさせる必要がある。その上で、中学年において経験してきた多様な表現方法のなかから、より効果的に相手に伝えることができる表現方法を選択し、あるいは組み合わせるような能力を育てていくことが重要である。

一方、聞き手となる児童への配慮も忘れてはならない。低学年では、相手の表現を正しく受け止める楽しさを味わわせ、中学年においては、相手の言いたいことが分かる喜びを味わわせたい。さらに高学年においては、相手の表現内容をもとに自分の考えをふくらませ表現させるという配慮が必要になる。このことによって聞き手である児童に、自分の考えが豊かになっていく喜びを味わわせるわけである。

すべての学年に共通する配慮事項は、児童一人一人のよさを見つけ出し、それを大いに認めることである。自分の考えが肯定的に受け取られていることを感じた児童は、表現することに対してより意欲的になるであろう。また、児童がお互いを認め合えるような雰囲気や学級内につくりだすことも重要である。互いのよさを発見し評価し合うことによって、共に表現していくという態度を育てていくことが大切である。

4. 学び方を身に付けている児童

「学び方が分かり、身に付ける」ことを、本研究では以下の表のようにとらえた。これらの能力は、国語科に限らず全教育活動の中で培うものであるが、国語科の説明的文章の読みにおいても、生涯学習の視点に立って学習内容の具体化を図った。また、意欲的に読み進める学習活動を活発にするために、オの項目は特に重点的に取り組みを進めてきた。

育成したい能力	学習内容（各学年のねらいや手だては、各分科会の報告参照）
ア. 学習課題をもつことができる。	a. 個人の課題の作り方が分かる。(興味関心疑問をもつ。問題作り。) b. 共通の課題にまとめることができる。(類似点・相違点に気付く。課題の価値が分かる。協力して課題をまとめる。)
イ. 課題解決の学習過程が分かる。	a. 課題解決の見通しをもつことができる。(学習課題作り→個の読み→共同の読み→まとめ・発展という学習の流れ — 単元の流れ・1単位時間の流れ) b. 課題解決の計画を立てることができる。
ウ. 学習の方法が分かる。	a. 一人で行う学習の方法が分かる。(聞く、話す、読む、書く) b. 共同で行う学習の方法が分かる。(話し合い・見せ合い)
エ. 情報活用の方法が分かる。	a. 教材文からの情報の活用方法が分かる。(内容的価値、表現・言語的価値の収集・活用) b. 教材文に関する情報の収集・処理・活用の方法が分かる。(人物、資料、図書等)
オ. 表現の方法が分かる。	a. 音声による表現の方法が分かる。 b. 文字による表現の方法が分かる。 c. 動作化、制作による表現の方法が分かる。 d. 図表化、絵画化による表現の方法が分かる。
カ. 評価の方法が分かる。(学び方、内容、意欲)	a. 自己評価の方法が分かる。(自分のよい点分かる。修正ができる。進んで課題解決に取り組んだか分かる。) b. 相互評価の方法が分かる。(友達のよい点分かる。友達のよい点を表現することができる。友達のよい点を見習うことができる。)
キ. 練習の方法が分かる。	a. 読む練習の方法が分かる。(音読・朗読、一人読み、共同の読み深め等) b. 書く練習の方法が分かる。(視写、書き込み、書きまとめ等) c. 聞く・話すの練習の方法が分かる。(聞き方、話し方、話し合い)

III 実践事例

1. 第1学年 楽しく読み進めるための学習活動の工夫

(1) 教材名 じどう車くらべ

(2) 研究主題と教材との関連

説明文を楽しく読み進めるためには、「めあてをしっかりとたせること」「言葉に興味・関心をもたせること」「喜んで表現させること」が大切である。

本実践では、単元全体のめあてを「自分だけの自動車図鑑を作ろう」とした。児童は、大好きな自動車の図鑑を作っていくのであるから、意欲的に学習に取り組むことが期待できる。また、指導する事項を精選し、動作化、言い換えなどをさせることによって言葉への興味・関心を高めることができる。そして、ワークシートを工夫し、毎時間変化のある表現方法を取り入れることによって、興味を持続させながら学習を進めていくことができる。さらに、自己評価させることにより、「各時間ごとのめあて」「一人読みの学習方法」を意識させ、達成の喜びを味わわせたい。

これらのことを通して、児童は、本教材を楽しく読み進めていくことができると考えた。

(3) 指導の概要 (全9時間・本時5/9 ※印)

時	学 習 活 動	楽しく読み進めさせる手だて
第 一 次 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車図鑑作りを計画する。 ・教材文のはじめの部分を読み、何を比べて読むのか確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材に対する興味・関心をもたせる。 ・学習の見通しをもたせる。
第 二 次 (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・バスと乗用車、トラック、クレーン車の仕事とつくりを読み取る。 ※本時は、クレーン車の仕事とつくり ・消防自動車の問題提示に答える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな表現方法を取り入れる。 <p>バスの人を乗せて運ぶためのつくり、バスとトラックとの比較、クレーン車の自慢話、消防自動車の仕事とつくりをそれぞれワークシートに書かせる。</p>
第 三 次 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな自動車の説明文を書く。 ・書いた説明文を分類し、図鑑に仕上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本や図鑑を利用して調べさせる。 ・書きためてきたワークシートを仕事をもとに分類させる。
第 四 次 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・教材文に出てきた片仮名の読み方と書き方を練習する。 	

(4) 本時の指導 (5 / 9 時)

①目標

- ・クレーン車の仕事とつくりの特徴を読み取ることができる。(理解)
- ・クレーン車のつくりを考えながら、自慢話を喜んで書こうとする。(表現・意欲)

②展開

(◎は、評価にかかわる支援・助言)

学 習 活 動	読み進めるための支援	評 価
1. 本時の学習のめあてをつかむ。	・本時のめあてを提示する。	
クレーン車のしごととつくりをしらべましょう。		
2. 本時の学習範囲を音読する。	・仕事とつくりに着目して読むことを伝える。	・意欲的に読んでいるか。
3. クレーン車の仕事、つくりを述べている文を見つけ、正しく視写する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「何は、何を、どうする」に分けて書くよう机間指導する。 ・「じょうぶなうで」「しっかりしたあし」を落とさず書けるよう机間指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正しく視写しているか。 ◎もう一度本文と比べてみよう。
4. クレーン車の仕事とつくりの関連を考えながら読む。	<ul style="list-style-type: none"> ・類義語や動作化で理解を深める。 <p><押さえない語句></p> <p>つり上げる じょうぶなうで かたむく しっかりしたあし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「うで」「あし」をはっきりさせるため、挿絵に印をつけておき、そのどれかを選べるようにしておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・類義語が言えたか。 ・動作化ができたか。 ・挿絵と言葉が結び付けられたか。 ※注意する語句を一つ一つ示すようにする。
5. クレーン車の自慢話を書く。	・うで、あしの役目を考えながら自分がクレーン車になって自慢	◎書けない児童には書き出しの言葉を
6. クレーン車の自慢話を発表する。	話が書けるように机間指導する。	助言する。

(5) 考 察

①説明的文章を意欲的に読み進めさせるための手だて

学習課題 単元全体のめあて「自分だけの自動車図鑑を作ろう」は、児童にとって興味のあるものとなり、意欲的に学習を進めていくのに効果的であった。また、教材のはじめの部分で、それぞれの自動車の仕事とつくりを調べていくというのを押さえることにより、毎時間の読みのめあてもしっかりととらせることができた。

語句の精選 本時では、4つの語句を取り上げ、クレーン車の仕事とつくりを読み取らせていくこととした。「つり上げる」については、自分の腕を使って動作化させた。「手を上に向けちゃいけないだよ。」などと児童から声が出て、手を下に向けたまま腕を下から上に持ち上げる動作はできた。しかし、「釣る+上げる」の「釣る」ということに関しては理解を深められたかどうかは疑問である。釣り道具などを使って見せれば、さらに効果的であった。「丈夫な」については言いかえをさせた。「かたい・こわれない・動かない・崩れない・折れない・われない」と出てきた。さらに、「丈夫な腕、しっかりしたあしはどれかな。」と、挿絵に印をつけさせた。これは、ワークシートに前もって丸印を幾つか付けておき、その中から選ばせた。この方法は、クレーン車の「腕」「あし」をはっきり理解させるのに効果的であった。

ワークシート 毎時間変化のあるものに工夫した。それぞれの自動車の仕事とつくりを記入する欄は、はじめは穴埋め式に、後半は見つけたところを視写するように作成した。読み取ったことをまとめる欄も、「バスのその他のつくり」「バスとトラックを比べる」「クレーン車の自慢話」と変化をもたせた。この結果、毎時間同じ「仕事」と「つくり」を学習しているのであるが、児童は飽きずに楽しく学習を進めることができた。また、画用紙に印刷することにより「図鑑作り」の意識をさらにつけさせることができた。児童は、学習が終わるたび1枚1枚を大切にしまっていた。

自己評価 自分の学習を振り返るために自己評価を取り入れた。「できたよカード」とし、「めあてができた」「楽しくできた」「学び方ができた」の3点を評価させた。この結果、全員がめあてをはっきり把握するようになった。また、めあてに向かって学習する意欲が増したように思う。

②学び方を定着させる手だて

毎時間「今日の学び方」ということで一人読みの学習方法を紹介していった。また、そのつど教室に掲示していった。まだそれを使って自分なりの学習を展開するまでにはいかないが、国語の学習にはいろいろな方法があることに気づき、興味をもって取り組む児童が増えてきた。

2. 第2学年 興味・関心をもち、正しく読み進めるための学習活動の工夫

(1) 教材名 「ことば」をおぼえたチンパンジー

(2) 研究主題と教材との関連

本教材は、チンパンジーがどのようにして「ことば」を覚えたかについて、筆者とのかかわりを通して述べられている文章である。説明的文章であるが、文章全般に筆者の感動が強く表れている。入学以来、平仮名・片仮名・漢字と学習してきた児童が、言葉を覚えることの意味を考えることのできる教材でもある。そこで、チンパンジーが「ことば」を学習していく過程を『勉強図鑑』にまとめる表現活動を通して、興味・関心をもちながら叙述に即して読み進めさせることにした。叙述に即し、正しく読み進める手がかりとして、本単元においては、挿絵を活用する。

(3) 指導の概要 (全13時間・本時9/13 ※印)

時	学 習 活 動	正しく読み進めるための手立て
第 一 次 (1)	○全文を通して読み、感想をもつ。	・初めて知ったこと、不思議だったこと、おもしろかったこと、もっと知りたいこと等についてまとめる。
第 二 次 (2)	○感想をもとに、小見出しをつける。	・アイの変化に着目しながら、場面を分ける。 ・初めとまとめの関係に気付く。
第 三 次 (8)	○アイがどのようにして「ことば」をおぼえたのか、松沢さんのアイに対する思いを中心に表現に即して読み、アイの勉強図鑑にまとめる。 ※本時は、アイが自分から進んで「ことば」を使う場面	・書かれている内容を正しく理解するために、挿絵を活用する。 ・アイの行動、松沢さんの思いや行動を正しく読み取るために、主述の関係をつかむ。 ・行動確認のためにサイドラインを引く。 ・指示語や接続語の使い方のよさに気付かせ、その働きを理解する。 ・読み取った内容を図鑑にまとめる。
第 四 次 (2)	○アイの勉強図鑑を読み合う。	・互いの表現のよさを認め合い、自分の表現に生かす。

(4) 本時の指導 (9 / 13時)

① 目標

- チンパンジーのアイが自分から進んで「ことば」を使うようになったことについて、
叙述に即して読み取ることができる。(理解)
- アイや松沢さんの気持ちを自分なりの言葉で表現しようとする。(表現, 意欲)

② 展開

(◎は、評価にかかわる支援・助言)

学 習 活 動	読み進めるための支援	評 価
1. 前時の学習を想起する。 2. 本時の課題をつかむ。 自分から進んで「ことば」をつかったアイについて読もう	・小見出しをもとに、これまでのアイの行動を確かめるようにする。	・課題をつかんだか。
3. 本時の学習場面を音読する。 4. アイの行動にサイドラインをひく。 5. 図形文字をもらった松沢さんの気持ちを考える。	○アイの行動に着目して読むように助言する。(聞いている児童には微音読をするよう促す。) ○主語がはっきりしない文には、「だれが」かを考えるよう助言する。 ○前段落の内容と関連付けて読んだり、文と文を関連付けて読んだりするよう助言する。	・アイの行動に着目しながら読んでいるか。 ◎とらえられない児童には、主語を助言する。
6. 勉強図鑑にまとめる。 7. 友達の発表を聞き、自分の考えと比べる。	○自分の言葉で、アイの行動と松沢さんの喜びをまとめるように机間指導を通して支援する。 ○友達の表現のよさに関心をもたせ、次の学習につなぐようにする。	・二人のかかわりを理解し、自分なりの言葉で表現しているか。 ◎中心的な表現を示唆する。

(5) 考 察

① 説明的文章を意欲的に読み進めさせる手だて

児童の実態に即して授業を設計していくことが、一人一人を大切にすることの第一歩ではないかと考え、読書傾向、内容に関する興味や関心、言語能力に関する調査を行った。この結果、本学級の児童は、物語文も説明文も好きでよく読むこと、書いてある順序はとらえられるが、内容とかかわり、筋道立てて読む力が弱いということが分かった。そこで、興味・関心を持続させ、内容を事柄と結び付けて正しく読むために、「図鑑を作ろう」という単元として設定した。さらに、アイと松沢さんの両者の思いをつかむことが内容を正しく理解することになると考え、ワークシートを作成した。

指導に当たっては、読み深めの段階で、アイと松沢さんの行動に着目させ、その主語を明確にさせるために、色を分けてサイドラインを引くようにさせた。これは、自己評価や相互評価を行うときに役立つものであった。また、低学年の説明的文章は、文章量が限られてしまうだけに、叙述のみを手掛かりにして正確に読むことは難しい。そこで、挿絵を活用するよう努めたが、楽しく読むことや叙述を確認したり、叙述から読み広げたりするには、有効な手だてであったと考えられる。

② 学び方を定着させる手だて

一人一人がどのような手順で学んでいけばよいのか、その方法について見通しをもつことができれば、児童は自ら主体的に文を読み進めることができると考え『学び方カード（1年用・2年用）』を作成した。このカードは、学んでいく手順を追い、吹き出しや絵を使いながら低学年の児童に学び方を分かりやすく説明したものである。カードを使うことにより、「いつも読む方法が分かるのでとても便利だね。」「ヒントがあるので、自分一人でも読めるようになっていくね。」「次にやるのが分かるので楽しいね。」などの児童の意欲的な声が聞かれた。

しかし、こうしたカードを一層有効に活用していくためには、その使用方法が同じパターンに陥ることなく、教材や学習目標によって、教師と児童が話し合いをしながら使っていく必要があると考えている。



学び方カードの例

3. 第4学年 自分の力で読み進める学習活動の工夫

(1) 教材名 わらとくらし

(2) 研究主題と教材との関連

本教材は、わらの特質を生かし、生活を豊かにしてきた昔の人の知恵を分かり易く説明している。わらを利用した生活用具が減少している現在、叙述に即し、正確に読み取らせることでその知恵に感動させたい。そのために、具体物などの展示等にも配慮した。

各段落の要点がはっきりしているため、段落相互の関係を考えるのには適している文章である。文章構成の大体を一次でつかみ、二次で要点を支えている細部を、言葉に着目し、正確に読み取ることで段落相互の関係を理解させたいと考えた。わらの特性とその使われ方の2点を読みの観点とした課題を設定し、主体的に読み進めるため、次のような活動を重視した。

- ・自分に合ったワークシートの選択
- ・サイドライン・囲みなどを行う言葉への着目
- ・叙述の読み取りを絵に表現し、説明を加える手法の導入
- ・自分の読みや学習意欲を振り返る自己評価

一人読みで自分の考えをもち、共同の読みで加除修正しながら、課題解決を図る学習過程や学び方が分かることで、次への読みの意欲を育てることができると考える。

(3) 指導の概要（全12時間・本時9/12 ※印）

時	学 習 活 動	自分の力で読み進めさせる手だて
一 次 (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・初発の感想をもち、全文の課題をつかむ。 ・文章構成の大体をつかむ。 ・学習計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材に対し、興味・関心をもたせる。 ・筆者の考えにせまる学習のめあてをもたせる。 ・意味段落の要点を大まかにとらえる。
二 次 (7)	<ul style="list-style-type: none"> ・わらの特質と使われ方を読み取る。 ※本時は、わらのすぐれた点の二つめを生かした使われ方 ・筆者の考えを読み取る。 ・段落相互の関係を考え、文章構成を確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サイドライン・囲みなどの方法を取り入れて読み進めさせる。 ・表解法・個条書法・描画法などを使って、読み取ったことを表現させる。 ・共同の読みで考えを深めさせる。
三 次	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の考えに感想を書き、昔の人の生活の知恵について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感想を書き、話し合いで考えを深めさせる。

(4) 本時の指導 (9/12時)

① 目標

- 熱をにがしにくいという性質を生かして、わらはどのように使われているのかを読み取ることができる。(理解)
- わらの使われ方が分かるように絵に描いて説明しようとする。(表現, 意欲)

② 展開

学 習 活 動	読 み 進 め る た め の 支 援	評 価
1. 前時の学習内容を確認する。 2. 本時の学習課題と学習方法を確かめる。	○前時からの課題と第三段落の内容を確認する。 ○前時からの課題を受けて詳しく読み取るための課題を設定する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> わらをどのように使うと熱をにがしにくいのか, 調べよう。 </div>		
3. 第三段落を読む。 4. 課題に向かい, ワークシートに自分の考えを書く。 5. 書いたことを基に話し合う。 ・使われ方に共通していることを見つける。 ・性質との関連を考える。 6. わらをどのように使うと熱をにがしにくいのか, 分かったことを書く。 7. 本時の学習を振り返り, 評価する。	○学習方法を確認する。 ・わらの使われ方を絵に描き, 説明を加える。 ○課題にそって読み取るよう促す。 ○机間指導で個別化を図る。 ・手掛かりになる言葉に着目。 ・かけない児童にヒントシート配布。 ○絵を掲示し, 話し合いやすくする。 ○叙述に即して考えるよう促す。 ・「束ねる」「わら束」という言葉に着目。 ○「わらを」の書き出しを指示する。 ○評価の観点を示す。	・学習課題をつかみ, 学習方法を理解したか。 ・課題にそって絵を描き, 説明を加えているか。 ・わらの使われ方が読み取れたか。 ◎キーワードを提示し, 語句同士のつながりを考えさせる。 ・文章に表現できたか。 ◎書けない児童には, 板書を見たり, 本文を読んだりするよう指示する。

(5) 考 察

① 説明的文章を意欲的に読み進めさせる手だて

児童が意欲的に文章を読むためには、自分の力で読み進めることが大切である。そこで、意欲をもって主体的に読み進めるために、次の4つの児童像を考え取り組んだ。㉞課題意識をもち自ら解決しようとする。㉟言葉の働きに着目し要点を正しくつかもうとする。㊱いろいろな表現方法から自分なりに表現しようとする。㊲学習方法や手順がわかり進んで読もうとする。特に本教材では、内容を理解させるために書く活動を中心とした表現方法を取り入れて叙述を正しく読みとるための手助けとし、自分の立場から表現させた。

また、1時間の学習過程を分かりやすく示し、それを毎時間繰り返すことにより学習の見通しをもたせて、常に主体的に意欲的に学習に向かわせた。さらに毎時間の課題を意識させることにより、要点と要点を詳しく説明している文を丁寧に読み取らせることができた。

② 学び方を定着させる手だて

自分の力で読み進めるためには、具体的な学び方を身に付ける必要がある。

本単元では、学習形態を、個の学習→共同の学習→個の学習という形を繰り返す方法を取った。まず、個の読みを大切にするため時間の保障を十分に自分の読みをしっかりとらせた。要点にサイドラインを引いたり、わらで作った物に囲みをつけたり、絵で表現したりして具体的に学習の方法を示しながら読み取らせた。次に、共同の学習の場で自分の読みを発表したり、友達の考えのよさに気づいたりして、自分の読みを深めていく。そして、個の学習にもどり加除修正をしまとめ、評価させた。学習の手助けとしてワークシートを活用した。また、ヒントシートを利用させたり、机間指導をしたりしながら教師の支援もきめ細かに行った。

各時間ごとに授業を振り返って、学習内容と意欲の両面から自己評価をさせ、授業の感想を書かせたことは、1人読みを進めるために有効であった。課題が達成され、評価も明確にできることは、学び方を積み重ねることとなり意欲的な取り組みへとつながることが分かった。

課題を正しくとらえさせ、1人読みの具体的な方法を身に付けさせ、個の考えを大切に支援してやることで児童をより一層意欲的な読みに向かわせ、自信をもって読み進められる手だてとして有効であることが分かった。

さらに、共同の学習では、発表の仕方や説明の方法も練習させておきたい。課題にそった話合いに焦点化していく必要がある。児童の読みのよさを認め、広げるために、取り上げ方に気を配り、授業の組み立てに生かすように考慮していく。そして、言葉に着目して文の内容的価値を大切に、深めていく授業を展開したい。

4. 第5学年 一人一人が学習の仕方を身に付け、意欲的に読み進める学習活動の工夫

(1) 教材名 日本の夏, ヨーロッパの夏

(2) 研究主題と教材との関連

本教材は、日本とヨーロッパの夏の気候の違いが農業や人々の暮らし方に大きな影響を与えてきたことを、日本とヨーロッパの様子を対比する形で述べた説明文である。

そこで、児童が意欲的に読み進めている状態を、⑦説明的文章の内容的価値にふれるとき、⑧自分の力で読み進めているとき、⑨共同で読み深めているとき、⑩学習したことが実生活に生かされるときとの4点からとらえ、それらを学習活動の中に多く取り入れる指導を行うことで、「意欲的に読み進める」児童へ変容させることができるのではないかと考えた。

説明文を読み進めていく場合、知的好奇心を持続するための学習課題をもち、叙述に即して学習課題を解決し、評価するという学習の流れを児童が身に付けることが大切であるが、特に学習課題を解決する段階の「一人読み」「共同の読み」「書きまとめ」に焦点を当てて授業を進めていくことにした。

本教材では、一人読み、共同の読みで読み取った事柄をパンフレットや新聞、マンガ、事典など、児童が各自選択した方法で書きまとめて読みをさらに確かなものにさせることとした。

(3) 指導の概要 (全8時間・本時5/8 ※印)

時	学 習 活 動	読 み 進 め さ せ る 手 だ て
第 一 次 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 題名から内容を予想する。 ○ 全文を通読し、感想を書く。 ○ 大段落を手掛かりに、大まかな文章構成をつかむ。 ○ 感想をもとに学習計画を立てる 	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて知ったこと、不思議に思ったこと、みんなで読み深めたいこと等を書かせる。 ・初発の感想をもとに、学習課題をすることで、今後の読み深めの見通し、めあてをもてるようにする。
第 二 次 (5)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 意味段落ごとに日本とヨーロッパの夏の気候の違いと暮らしへの影響について読み深める。 <p>(※ 本時は、夏の気候の違いが家の造りに影響を与えている段落)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に必要な言葉や文に着目させ、書き込みができるようにする。 ・共同の読みの中で、読みをさらに確かなものにし、書きまとめの手掛かりをもたせる。 ・自分が選んだ方法で、自分なりに工夫しながら書きまとめるようにさせる。
第 三 次 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 書きまとめたものを見せ合い、感想を出し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・完成した作品を見せ合う中でお互いのよい点を学び合うようにさせる。

(4) 本時の指導 (5 / 8)

① 目標

- 夏の気候の違いが、日本とヨーロッパの家の造りにどんな影響を与えたかを読み取ることができる。(理解)
- 読み取ったことを自分なりの方法で書きまとめようとする。(表現、意欲)

② 展開

(◎は、評価にかかわる支援・助言)

学 習 活 動	読 み 進 め る た め の 支 援	評 価
1. 本時の学習課題を確認する。	○課題をしっかりと確認することで、課題解決への意欲が高まるようにする。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 気候のちがいが、家のつくりにどのようなえいきょうをあたえているだろうか。 </div>		
2. 本時の学習範囲を音読する。	○ゆっくり、はっきり読むように助言する。 ○手がかりになる言葉や文に着目させ、サイドラインを引くように指示する。	
3. 一人読みをする。	○課題解決に必要な言葉や文に着目させ、書き込みができるようにする。 ○児童の読み進み具合に応じて、ヒントカードで個別指導する。	○自力で書き込みをしようとしているか。
4. 各自が読み取ったことをもとに話し合い、課題を解決する。	○日本の家は夏に、ヨーロッパの家は冬にくらしやすいように造られていることを中心文を手掛かりに確認できるよう話し合いを進める。	○進んで自分の意見を発しようとしているか。 ◎机間指導で把握した内容を紹介する。
5. 家の造りの違いについて自分の選んだ方法で書きまとめをする。	○なかなか書きまとめができない児童には、ワークシートを与え、進まない児童には、手掛かりが探せるよう助言する。	○自分なりに工夫しながら大事な点を落とさず、書きまとめようとしているか。
6. グループで書きまとめたものを見せ合う。	○自分と違う書きまとめの仕方に気づかせ、次への意欲につなげるようにする。	◎新聞、事典などの特徴を助言する。 ○自己評価ができているか。

(5) 考 察

① 説明的文章を意欲的に読む手だて

児童が意欲的に読み進める場面を意図的、計画的に学習活動の中に設定することが大切であると考え、読み進めていく過程で具体的に次のような活動をさせた。

(7) 課題づくり

初発の感想で児童が出し合った、不思議に思ったこと、もっと詳しく知りたいこと等を手掛かりに学習課題を作った。そのため、本教材から受けた知的好奇心が授業を展開していく中で持続された。未知の事柄を知ったときの感動や、より詳しく知ろうという探究心が意欲的に読み進めていこうという活動に結び付けることができた。

(4) 一人読み

学習課題を解決するために大事だと思う文や言葉にサイドラインを引くことは、ほとんどの児童ができたが、一步進んで、自分の考えや疑問、自分なりの答え等を書き込むことは、不十分であった。また、今後は、要点を支える細部にも目を向けさせて一人読みさせていきたい。

(9) 共同の読み

自分が書き込みしたことを全体の場で発言したり、そのことがまわりの友達から認められたりすることが、大きな満足感を呼び起こし、次の読みへの意欲となった。自分の意見を友達の意見と比べて聞き、話し合いをより一層、深いものにしていくことを目指したい。

(1) 書きまとめ

好きな方法を児童自身が選択することができ、楽しんで活動していた。読み深めた事柄を自分なりに工夫して表現することによって、書くことのおもしろさを体験し、書くことへの抵抗感がかなり取り除かれたようである。課題としては、教材文の特質も考え、より適切な方法を選択できるようにさせたい。また、その点の配慮、助言も大切にしていきたい。

② 学び方について

「書きまとめ」という学習活動は、各自が書き表す方法を決め、文章や場合によっては図、絵等を用いて表現するという児童中心の学び方である。学習の見通しをもった読み取りは、読みの目的を意識付け、意欲的な活動へと発展させることができた。

今回の「日本の夏、ヨーロッパの夏」の授業を通して、自分から一人読みをしようとしたり、自分の選択した方法に工夫を加えたりしながら書きまとめをする児童へと少しずつ変容していったことは大きな成果であった。単なる書きまとめに終わらないためにも、前段階としての一人読みや共同の読みの効果的な展開もさらに工夫していきたい。

5. 第6学年 目的に応じて意欲的に読み進める学習活動の工夫

(1) 教材名 波にたわむれる貝

(2) 研究主題と教材との関連

本教材は、フジノハナガイの潮汐周期活動について、観察と実験を繰り返してその行動のなごに迫る過程が、論理的文章構成で書かれている文章である。疑問（意見）→観察（事象）仮説（意見）→実験（事象）→結論（意見）という科学的説明文の論理の展開がなされているのである。したがって、観察記録文の特色を押さえ、論理の展開の仕方を学ぶ目的で読み進めていくことが大事であると考えた。そのためには、叙述の細部に注意して読み、事象と筆者の感想や意見を判別して読み取ったり、文末表現、接続詞に着目し、論理構成を把握したりする力が要求される。そこで、読みの力を鍛える学び方を学習の手引きとして児童に提示し、自らの力で読み取ることのできる満足感を充足させたいと考えた。また、一人読みの時間を十分に取り、書きまとめさせる。それをもとに、筆者の論の進め方や表現の工夫に気づかせたり、知識絵本作りの参考にさせたりし、表現する楽しさを読みの意欲につなげたいと考えた。

(3) 指導の概要（全15時間・本時7/15 ※印）

時	学 習 活 動	読 み 進 め さ せ る 手 だ て
第 一 次 (3)	○題名から考えたことを発表する。 ○全文を通読して、感想を書き発表する。 ○学習計画を立てる。	○「波に」「たわむれる」に着目させる。 ○初めて分かったこと、不思議に思ったこと、詳しく読み調べたいことを分けて発表させる。 ○活動の目標、読みの目標を明確にさせる。
第 二 次 (9)	○筆者がフジノハナガイに出会ったときのようす、貝の動きと抱いた疑問を読み取る。 ○潮の干満による貝の行動の仕組みを読み取る。 (※本時は、満ち潮の時の貝の行動を実験で解明する場面)	○学習方法を知らせる。 ○書きまとめるとき、学習の手引きの利用を促す。 ○読み取るためのヒントシートを用意し、個に対応できるようにする。(ヒントシートの内容は、仮説、実験、観察、結論の読み分け方、筆者の論の進め方、筆者の科学的態度、貝への愛情などに目を向けさせるためのものである。)
第 三 次 (3)	○読み取ったことをもとに、知識絵本をつくる。	○表現活動に役立つ学習の手引きの利用を促す。 ○読んでもらう相手を意識し、再構成させる。

(4) 本時の指導 (7/15時)

① 目 標

- 満ち潮のときのフジノハナガイの行動について、表や図や絵などを用いてまとめたものを基に、筆者の考えや実験の様子について読み深めることができる。(理解)
- 筆者の考えや実験の様子について、自分なりに書きまとめようとする。(表現、意欲)

② 展 開

(◎は、評価にかかわる支援・助言)

学 習 活 動	読み進めるための支援	評 価
<p>1. 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>満ち潮のときのフジノハナガイの行動のきっかけを調べるために、どのような実験をし、どんなことが分かったのか。</p> </div>	<p>○前時、一人読みで書きまとめた学習ノートに目を通すよう促す。</p> <p>○学習課題を明確に提示する。</p>	<p>・学習課題をつかめたか。</p>
<p>2. 本時の学習範囲を音読する。</p> <p>3. 「満ち潮のときの行動のきっかけを調べるために、どのように実験を進め、どんな結論を出したか。」各自が読み取ったことを基に話し合う。</p> <p>4. 話し合ったことを基に、一人読みの学習ノートに加除修正する。</p> <p>5. 学習のまとめとして、本時の学習範囲を微音読する。</p> <p>6. 次時の学習のめあてを知る。</p>	<p>○指示語や接続語などに着目。</p> <p>○課題解決の手掛かりになりそうな児童の学習ノートをOHPで紹介する。</p> <p>○話合いの観点を明確にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点のとらえ方 ・筆者の論の進め方(仮説 — 実験 — 結論) ・着目した言葉 ・書きまとめ方 <p>○結論にいたるまで、いくつかの実験をした必要性を考える発問をする。</p> <p>○問題解決に向けて話合いが深まるように助言する。</p> <p>○教師の板書や友だちの発言などを参考にするよう助言する。</p> <p>○学習の成果を認め励ます。</p> <p>○次の学習に意欲をもたせる。</p>	<p>○学習ノートが簡潔に順序よくまとめられたか。</p> <p>◎順序については個別に示唆する。</p> <p>○意欲的に発言できたか。</p> <p>○加除修正できたか。</p> <p>◎机間指導で助言する。</p>

(5) 考 察

① 説明的文章を意欲的に読み進めさせる手だて

本分科会では、説明的文章の学び方を身に付けることにより、学習への意欲化が図れると考えた。つまり、知識・情報を正確に読み取ることができ、学習内容への興味・関心もてる、筆者の述べた感想や意見に驚きや発見をする、学習したことが次の学習・生活に生きて働く、さらに、学習の仕方が分かり学ぶ喜びが得られる、などの学習活動が大事であると考えた。

本教材では、次の2つの点について読みの意欲につなげる活動と考え、指導法を工夫した。

一人読みでの書く活動 ……文と文、段落と段落との関係、事象と意見・考えとの関係をはっきりさせ、正確に読み取るために、自分なりの表現方法で書きまとめた。学習の手引き、ヒントシートなど支援の必要な児童も、しだいに自力で書きまとめる力をつけ、読み取りの苦手な児童に特に有効だった。また、自分の考えを明確化でき、読み深める上で効果を挙げた。

発展学習での表現活動 ……学習の発展として、知識絵本作りの学習活動を展開した。フジノハナガイの生態に目を向けた絵本、筆者の実験を追った絵本、心に残った場面を紹介した絵本など、個性を発揮した絵本ができた。だれに読ませたいか相手意識をもたせ、敷衍、再構成に取り組ませていく活動は、主体性をもたせ、次への読みの意欲を高めることができた。

② 学び方を定着させる手だて

児童に読みの力を付け、第6学年の教材のねらいに即した学習方法を重点化し、学び方の定着を図る必要があると考えた。そのために、4種類の学習の手引きを考案し、児童に持たせた。学習の手引きⅠ —— 要点・要旨など読みの基本的技能の習得ができる。学習の手引きⅡ —— 読み取ったことを自分なりに書きまとめ、整理することができる。学習の手引きⅢ —— 第6学年の教材のねらいに即し、文章の種類・形態に応じた読み取りができる。学習の手引きⅣ —— 応用・発展で自分なりの表現活動をするときのヒントになる。これらを効果的に利用し、自分の力で目的に応じた読み取りの力を身に付けさせることができると考えた。

本単元の学習では、特に学習の手引きⅡ・Ⅳが児童の能力や必要に応じて利用された。具体的に学習方法が示されているため、筆者の疑問を解明していく論理の展開の読み取りを効果的に支援した。また、文章形態の特性を生かした表現活動をさせることができた。しかし、学習の手引きが児童にとってより使いやすいものにするためには、修正を加えていく必要がある。

自分で読み取ったものをもって共同の読みに入ったことも、話し合いを活発にし、読み深める上で有効であった。また、毎時、学習の終わりに自己の学習を振り返る時間を取り、自己評価をさせた。自力で読み取る楽しさを実感する児童が増えてきたことは大きな成果である。

IV. 研究の成果と今後の課題

前述したとおり、説明的文章を意欲的に読み進めさせるためには、理解したことを表現できる力を育てるとともに、学び方を身に付けるようにしていくことが大切である。本研究では、表現力の育成については、相手や目的意識を明確にもたせるための様々な工夫が試みられ、学習意欲を高める上で成果を挙げた。また、学び方については、その内容を明らかにするよう努め、学習カード、自己評価、学習方法の紹介など、具体的な方法も幾つか考え出された。今後、これらの成果に立って、指導内容を一層吟味し、教材の開発を行うこと、学習課題の設定の在り方を追究すること、個への支援の具体的な在り方を解明していくことなどが挙げられる。

各分科会の成果及び課題は、以下のとおりである。

低学年A分科会 『学び方カード』を手掛かりに、自分で読もうとする気持ちが芽生え、説明文を楽しく読む姿が見受けられた。また、図鑑や絵本を作る活動を理解学習にかかわらせることで、興味・関心を持続させ、作品を作り上げる喜びを味わいながら確かに読む力が育ちつつある。指導内容の系統を図り、指導計画を作成することが今後の課題である。

低学年B分科会 児童にとって魅力ある活動を単元全体のためあてとして取り入れることによって、読みのめあてもはっきりし、意欲的・主体的に読み進めることができた。また、学び方を具体的に示し経験させることによって、学び方のいくつかを身に付けることができた。今後は、個々の学習課題をどう解決させるか、一人読みの力をどう高めていくかが課題である。

中学年分科会 ①様々な学習方法を学ぶことにより自分の力で読み進められる範囲も増え、意欲も増した。②課題を意識させた読みの工夫で内容や方法が分かる喜びにつながった。③学び合いの中で聞く、考える、比べる等の態度が育った。今後、教材の特性に応じた学習方法や表現方法を学ばせ、選ぶ力も育てながら児童理解を生かした支援の方法を追究していきたい。

高学年A分科会 自分なりの表現形式による書きまとめを一単位時間の中に取り入れた学習活動は、読みの活性化を図ることができ、個を生かし意欲を高めることにも効果的であった。児童が学習の仕方を知り、見通しをもった主体的な学び手へと変容しつつある。さらに、共同の読みにおける深め方、書きまとめにおける個への支援の在り方を追究していきたいと考える。

高学年B分科会 成果の主な点としては、①学習の手引きを作成したことにより、児童に学び方の手掛かりを示すことができた。②発展学習として教材にふさわしい書く活動を設定することにより読みの意欲化を図ることができた。今後の課題としては、児童が、より使いやすいような学習の手引きの改善、一人読みを支援するためのワークシートの工夫等が考えられる。